

自分が日本語訛の英語を話しているかが分かります。でもそれはそれで道具としては十分です。仕事で出会う人はいろいろな発音の英語に慣れている場合がほとんどで、そのためそこそこ英語らしい発音なら理解できます。国により発音は違うので、英語の発音に世界標準はありません。語順とアクセントを押さえておけば、発音は日本語訛でも相手には通じます。たとえここで紹介したアプリに通じなくても、人間に通じればそれで十分です。

《人件費削減のため、アメリカの会社は機械に電話を取らせる所が多くなりました。こうなると日本語訛の英語では機械が理解できません。これは日本だけでなく他のアジアやヨーロッパの国々から来た人にも不評です。以前は英語を聴いて該当する番号のボタンを押せば良かったのに、今ではキーワードを正しく言わないと前に進めません。途中で諦めたら負けなので、筆者は本物の人間が出るまで粘ります。》

発音に自信がないと自然と声が小さくなるので、ますます相手にとって理解しにくくなります。英語を話す時は、語順、アクセント、声の大きさの3点に注意します。英語で独り言を言う時も、声に出して言うと発音の練習になります。周り

に「変な人」だと思われるぐらい大きな声で英語の独り言を言えれば、もう英語はあなたのものです。

一歩日本の外に出れば色々な発音の英語が飛びかっています。そこでは教科書通りの発音かどうかなど気にする人はいません。語順とアクセントさえ押さえておけば、LとRの発音を間違えても文脈から相手は理解してくれます。分からない時は聞き返してくるので、自分の言いたい事を相手が分かるまで根気よくいろいろな角度から説明しましょう。堂々と勇気を出して大きな声でしゃべるのがコツです。筆者の経験から言うと、発音が原因で話が通じないというよりも、語順がまちがっていたり、声が小さくて聞こえない、という理由で聞き返されることがほとんどです。言いたい事を表すには身振り手振り、つまり身体言語も役に立ちます。発音は自分に真似できる範囲で英語っぽい音を出せば十分です。

《英語の先祖は昔のドイツ語で、それにフランス語を経由したラテン語とギリシャ語が輸入されています。今は発音しない know の k も昔は発音していたそうです。》